

平成29年度 弘前市総合計画審議会議事概要（第2回）			
日 時	平成29年8月4日（金） 13時00分～14時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出 席 者	委 員 （21人）	森会長、村松委員、生島委員、高島委員、阿部委員、藤田委員、淀野委員、島委員、清野(智)委員、熊谷委員、前田委員、北村委員、鈴木委員、秋元委員、山形委員、米塚委員、石川委員、一戸委員、青山委員、三上委員、名越委員	
	事務局 （6人）	ひろさき未来戦略研究センター所長、ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター総括主査、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 議事			
(1) 審議の進め方について			
○事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。			
(2) 分科会の設置及び運営方針について			
○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。			
○委員の互選により、村松委員（会長職務代理者）をひとりづくり・くらしづくり分科会座長に、森委員（会長）をまちづくり・なりわいづくり分科会座長とすることに決定した。			
(3) 地方創生関係交付金事業について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
①弘前版生涯活躍のまち推進事業			
・サービス付高齢者賃貸住宅の実態として、要介護認定を受けていないと入れないということがあるので、移住者の居住先としてサービス付高齢者賃貸住宅が選ばれるのか疑問がある。			
→事業主体となっている社会福祉法人は、介護認定を入居の条件としていない。実際に移住してきた方も、介護認定を受けていない元気な方である。			

②世界で活躍するクリエイターと連携した新たなプロダクト・観光コンテンツ開発事業

- ・弘前、あるいは津軽から輩出された一流のクリエイターの方が既にいるので、その方々も含めて周知することが重要。外部の一流の人を招聘することも大事だが、まずは、地元にもそういう人がいるということを地元の人も含めて知らせることが重要ではないか。そのうえで、外部の人と商品開発をするほうが発展的に進めて行けるのではないか。

③都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業

- ・事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

④ひろさきライフ・イノベーション推進事業

- ・健康増進とは少し分野が違うかもしれないが、スポーツをしている子どもたちが怪我をした場合、例えば、捻挫したときにテーピングができる人は少ないと思うので、そういうことが出来る人を増やすような事業が出来ないものか。
- ・国立弘前病院と弘前市立病院の統合に代表される地域医療構想に対して市としての姿勢をはっきりと打ち出すべきではないか。また、病床数が削減されると、同時に医療従事者の減少という事態も懸念される。

→現在、県と国立弘前病院機構と市の三者で協議を進めている最中であり、単に病院の統合だけでなく、地域包括ケアや健康増進も含めて話し合いをしている。今後、市としては、ライフ・イノベーション戦略も含めた医療・介護・健康の3分野について方針を立てて、なるべく早く示していきたいと考えている。

- ・学校教育でも健康教育をしっかりと取り入れていくべきという意見はもっともだと思う。家庭での保育力の低下を実感しており、就学前児童に対する食育の徹底を行っているが、栄養士がいる市内の保育施設は半分に満たないのが現状である。市独自の取組として、市内の全保育施設に栄養士を置き、家庭に対して情報発信を強化するなどして、就学前の段階でいかに保護者に食育に関する意識付けが出来るかが非常に重要だと考えている。